

楽しむを伝える

本の楽しさは無限大
もっとたくさんの人たちに楽しさを伝えよう
図書館の外へも出掛けます

広がる図書館

図書館に足を運べない人たちのために、移動図書館車「やまどり号」が市内を定期的に巡回しています(運行予定は毎月、広報の「図書館・博物館たより」に掲載しています)。「やまどり号」で借りた本は、最寄りの地区センターに返却することもできます。

また、図書館では市内に十校ある小学校にそれぞれ二百冊ずつの本を貸し出しています。定期的に入れ替えを行いながら、学校図書館の充実にも一役買っています。



●移動図書館車「やまどり号」
約1,500冊の本を積んで、市内を定期的に巡回しています

支えるボランティア

子どもたちに小さい時から本に親しんでもらおうと、図書館とともに活動を続けるボランティアグループがあります。

「グループわらべ」(佐々木文子会長は、地域に伝わる昔話や伝承遊びをたくさん親子に伝えようと、さまざまな活動をしています。毎月第一土曜日の午前十時三十分からは、図書館で「読み聞かせ会」を開催。また、毎月第三水曜日に健康福祉の里で行われる一歳児健康相談の会場では、絵本の紹介や読み聞かせを行っています。訪れる人たちに本に親しむきっかけ作りを提供しています。

親子のふれあい

平成十五年十二月から、毎月第四日曜日の午前十一時から「読み聞かせの広場」を開催している「遠野おはなしきゃらばん」(高橋好子代表)。「面白い物がてら、



毎月第4日曜日に、とびあを会場に開かれる「読み聞かせの広場」
親も子どもも時間を忘れて、楽しい絵本の世界に浸ります

気軽に立ち寄ってほしい」と、会場はショッピングセンターとびあ二階の和室に設けています。

読み聞かせの広場では、毎回三十冊以上の絵本を用意。その日に読む絵本は、子どもたちが「読んでほしい」とリクエストした中から選んだりします。会のメンバーは保育士や主婦、学校の先生など多彩。「どんな本を読んでもあげたいのか」から、子育てに関することまで相談することもできます。

きょうに正確・迅速に

四月一日から「図書館情報システム」が稼動。図書館が所蔵する本をデータベース管理し、本の内容や、借りたい本の所在などが正確に管理されます。

国立国会図書館や、県立図書館、県内市町村の図書館とも連動し、これらの図書館が所有する本を市立図書館を経由して借りることも可能になります。

検索や予約が可能に

また、図書館と宮守ゆうYOUソフト館、やまどり号、各地区センター(遠野、松崎を除く)、さらには各家庭がネットワークで結ばれます。それぞれの施設にあるタッチパネル式の端末やインターネットにつながついている自宅のパソコンを利用して、図書館に行かなくても蔵書の検索や本の予約が可能になります。予約した本やビデオは、宮守ゆうYOUソフト館や地区センターにお届けすることもでき、図書館がさらに身近になります。

4月からの利用方法

すでに図書館で貸し出し登録をしている人も、再度手続きをして「図書館利用者カード」の交付を受けます。本を借りる時にはカードを提示してください。また、端末を利用した本の予約には、カードの登録番号とパスワードが必要になります。

つながる図書館

4月1日、図書館が変わります。図書館と宮守ゆうYOUソフト館、地区センター、自宅のパソコンがつながり、図書館がもっと身近に、使いやすくなります

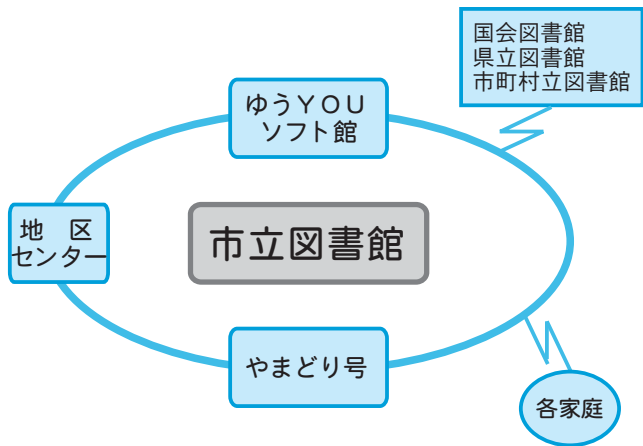
●携帯電話からも検索や予約が可能になります



●図書館利用者カード
4月1日からの本の貸し出しには、このカードを利用する(登録が必要)



●蔵書検索・予約端末
宮守ゆうYOUソフト館や地区センターに設置される端末



取材を終えて

図書館に行く、昔感じたドキドキした気持ちを思い出す。「この物語は、どんな展開に続くのだろうか」とか「次はどの本を借りようかな」とか。

自分のペースと想像力で読み進めることができる本の世界。読んでいる人それぞれの物語がそこには展開されている。現実ではあり得ないことも、想像の世界ではどんどん広がっていく。

毎日忙しく過ぎていく現代。そんな時こそ、図書館でちょっと一息ついてみませんか。あなたの心を癒す、希望の1冊があるはず。図書館に行こう。

特集 みんなの図書館 終わり

インタビュー



宮守町 菊池圭子さん、駿一君親子

宮守ゆうYOUソフト館を週に2回くらい利用しています。

図書館にある本やビデオがここでも借りられるようになると、とても便利になりますね。ほかの市の図書館から本を借りたり、読みたい本のリクエストなどのサービスもぜひ利用したいと思います。



小友町 菊池こず恵さん

調べものをしたり、雑誌を読みに行ったりと、学生時代にはよく図書館を利用していました。最近はずっと本を読むこと自体、少なくなりました。

読みたいと思った本が置いてあって、いつでも気軽に立ち寄れるような図書館であってほしいです。



遠野おはなしきゃらばん代表 高橋好子さん(綾織町)

子どもたちは、親に絵本を読んでもらうことで『楽しい』という経験になります。

絵本の読み聞かせに年齢は関係ありません。ぜひ、家庭でも、テレビを消して、絵本を読んであげる時間を作ってみてください。きっと、親子がふれあう素敵な時間になるはず。